

南会津のうりんニュース

第27号

平成12年8月10日発行
福島県南会津農林事務所



今月のトピック

学校林における森林づくり実施

7月5日に県立田島高校「ねぎしよ 祢宜所演習林」において、学校林活動の一環として田島高校農林科1年生から3年生の51名が除伐作業を行いました。

当日は気温がかなり上がりましたが、生徒たちは森林のすがすがしい風の中、心地よい汗をかいていました。

また、今年は「第24回全国育樹祭」が開催されることもあり、育樹の大切さをより理解してもらうため南会津農林事務所森林林業部職員を講師として山の手入れについての話や小型林業機械の実演・実習などを行いました。
(森林林業部)



熱心に実演を見入る生徒たち



森林の大切さを勉強しました

森林教室開催

6月28日に南郷村「高清水自然公園」において、南会津農林事務所森林林業部職員が講師となり森林教室を開催しました。

これは、南郷第一小学校4年生の児童に森林の働きや必要性を学んでもらう事を目的として行ったものです。

はじめに、絵や図を用いて森林の働きや林業の話をした後、森林に関するビデオを鑑賞しました。次に、森からの恵みを感じてもらうため、小枝を使って動物や昆虫を作りました。はじめは、ぎこちなかったノコギリの使い方も、職員に教えてもらいながら、少しずつ上手になったようです。

2時間ほどの教室でしたが、時間が足りないほど夢中になっていました。
(森林林業部)

南会津農業青年クラブ2年連続優勝！

～第15回福島県農業青年 クラブソフトボール大会～

南会津農業青年クラブは、7月15日、須賀川市で行われたソフトボール大会に出場しました。県内各地から11チームが集まり、予選、決勝と熱戦が繰り広げられ、当クラブは、圧倒的な強さで勝ち抜き、見事優勝することができました。

2年連続という快挙を成し遂げ南会津の力強さ、チームワークの良さをアピールすることができました。
(農業普及部)



V2おめでとうございます

農業用使用済プラスチックの組織的回収始まる

町村、J A会津みなみ等の担当者から構成される南会津地方農業用使用済プラスチック適正処理地区推進協議会（会長：J A会津みなみ星事業部長）では、去る7月27日に、平成12年度第1回目の農業用使用済プラスチックの回収を実施しました。

南会津全域にわたる組織的な一斉回収は今回が初めてで、J A会津みなみ各支店指定場所に持ち寄られた使用済農ビ、農ポリ、肥料袋等を、J A、町村及び農林事務所の担当者が各生産者毎に重量を測定した後、フレコンバッグに詰め込みました。

回収の時期が若干遅れたこと、事前の周知が十分でなかったこと等により回収量は多くありませんでしたが、目標の3トンを大きく上回り、南会津全体で4.7トンの使用済プラスチックが回収されました。

農業用使用済プラスチックは、法律によって事業者である農業者が自ら処理すべき産業廃棄物とされており、自己所有地であっても原則「野焼き」はできなくなっています。

野焼き、不法投棄等の不適切な処理は、環境への悪影響はもとより、産地のイメージダウンといった致命的な状況を招く恐れがあります。

このため、J A、南郷トマト生産組合、花卉連絡協議会、各町村等が連携し、地域ぐるみで適正処理・回収のためのシステムを構築し、トマト、アスパラ等の野菜や花卉の揺るぎない産地育成に努めているところで

す。
今年度第2回目の回収は、秋（11月）に予定されています。
（農業振興部）



南会津の環境を守りましょう

この人を知りたい

「只見の民芸保存・伝承に頑張る！！」

只見町大字梁取 長谷川 友一さん

長谷川友一さんは、大正2年生まれで今年87歳になられるそうですが、若々しく顔色が良くおだやかな笑顔の方です。

友一さんは、小さい頃から手先が器用で、日常生活に欠かせないワラ細工の草履、蓑、げんべい等を作っておられました。当時は、どの家でも家族で冬仕事として夏場の農作業に備えさせと手作りされていたそうです。家族の中でも一番上手だったそうです。

昭和30年代頃から、新しい生活用品が定着し、昔からの生活工芸品が消えてしまいました。なんとか残す方法はないものかと思いたち、仲間と「明和民芸保存会」を発足させました。公民館の協力もあり、仲間も20人になり只見、朝日の両地区も同様に活動を始めました。

毎年、町の大きな行事である「只見町文化祭」「ふるさと雪まつり」「明和公民館まつり」に出展し、年々「明和民芸品保存会」のつる細工の知名度は高くなっています。注文も多くなり、年中忙しいとのこと

です。
冬期間は、小学校での体験学習、公民館での「つる細工教室」の講師として活動中です。

長谷川さんは、夏場にカバヤスゲ草、ヒロロ草を刈り、秋にはつる等を穫り、冬場に寒晒しをする等忙しい毎日です。手先を動かすことが楽しい、1つ1つ心



長谷川さんの作品

をこめて編みあげるのがうれしいとのこと。

国体の時は、「蓑」に「祝国体」と編み込み、只見町に寄付され、「手作りの民芸の里」只見のPRをし、その印象を強くしました。何日もかかったそうですが、長谷川さんの「心」が伝わる活動です。

今の悩みは、唯一若い後継者がいないことだそうです。

冬期間、明和公民館で教室を開いていますので、ぜひみなさん参加してみませんか！！ 長年の培ってきた長谷川さんの技術を直に習うことができます！！

（農業普及部）

下郷町物産館の紹介

下郷町農林課

下郷町は、森林・原野が86.6%と林野率の高い中山間地域であり、豊かな自然に山菜、きのこ等の林産物と水稻を中心に蔬菜、花卉、果実、葉たばこ等の農産物を複合経営によって栽培されています。

平成5年度に地元の農林産物及び地域産品等を広く一般に紹介し、地域商品の流通、観光産業の発展、さらには地域産業の育成と地域の活性化を目指して、塔のへつり入口近くの国道121号沿いに林産物展示販売施設を整備し、下郷町物産館として運営をしています。

平成6年4月の営業開始時より、下郷町観光公社が管理運営にあっており、施設の内容としては、敷地面積3,895㎡のうち物産館が木造平屋建325㎡、駐車場1,546㎡(大・中・普通車で27台)、このほか直売所、物置等の施設となっています。

売場には地場産品を主体に土産品を販売しているほか、大きな火鉢のある食堂では地元特産の地鶏そばなどが食べられます。また委託販売も約100件を取扱っています。このうち80%は町内の農林産物、手芸品、加工食品、木工品、陶器等を陳列しています。

物産館施設の活性化をはかるため、イベントとして季節ごとに「新緑まつり」「山菜・きのこ即売会」「りんご品評会」「しんごろうまつり」「収穫祭」「新そばまつり」「感謝祭」など多彩な行事に取り組んでいます。特に平成12年4月から、町内で生産される農林産物及び地場産品の販売促進と地場産業の育成のために販売組織体を登録し、幕舎による直売コーナーを設けています。

来客数は開設された平成6年度は約8万人でしたが、年々増加し平成11年度は約14万人に達しており、同時に売上額も開設年の5千万円から7千万円を超え大きく伸びています。

年末年始や職員研修以外は開館しており、今後も地場産品の充実と利便性に配慮しながら多くの来客を期待しています。



オリジナル レシピ大募集!

～会津地鶏“味おこしオリンピック2000”開催～

会津地域特産の会津地鶏の消費拡大を目的に料理コンクールを開催します。皆様のアイデア料理をレシピ(写真添付)で募集します。

1 レシピ募集期間 平成12年7月21日～8月31日

2 試作・求評会の開催

応募作品から7点を選出し、そのメニューを応募者に調理してもらい、試作、求評会を開催します。

とき：平成12年9月27日(水) 10:00～14:30

ところ：会津若松市追手町 鶴ヶ城会館

3 問い合わせ先(応募用紙は下記にあります)

南会津農林事務所農業振興部 (tel 0241-62-5253) 会津農林事務所農業振興部 (tel 0242-29-5307)



～研修会・講習会等お知らせ～

内容	月日	場所
①農業機械研修：「おいしい米生産のためのライスセンタ運営」(講義)	8月29日(火)	農業短期大学校
②ガーデニング講座：「コンテナガーデンの植栽」	8月30日(水)	農業短期大学校
③農業機械研修：「おいしい米生産のためのライスセンタ運営」(実技)	9月7日(木)	農業短期大学校
④農産加工研修：「ジュース加工基礎」	9月13日(水)	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

南会津農業の担い手は？

南会津農業の最も深刻な課題は、担い手不足の問題であることは異論のないところであろう。現役の農業者が高齢化に伴いどんどんリタイヤしても、それを補う若い後継者が出てこないという地域の実態がある。

農業改良普及センターは平成2年と平成7年の農業センサスの数字から平成17年の基幹的農業従事者数（農業を仕事として従事し、農業だけで生計を立てている人あるいは他の収入もあるが農業が主の人の数）を予測したが、平成7年のそれが2,588人であったものが2,470人に減少、また生産年齢率（15歳～64歳の農業従事者の割合）は23.4%まで低下するという傾向を示した。この生産年齢率の数値は、県平均の42.0%に比較して大きく高齢化が進むことを意味している。

端的に言うと、平成17年になると南会津において、農業で生計を立てる人は、南会津に住む人口の7.5%の比率で、その内でも65歳以下の農業者はさらに4分の1の578人しかいなくなるということである。

これは予測の話ではあるが、私は農業行政に携わる者として、やがては農業を継続するという意味だけでなく地域生活までが身動きのとれない事態になるような気がして不安感、危機感を感じている。何故ならば、南会津では豊かな自然も人情味溢れる生活文化も農林業に基盤を置いており、農林業が停滞した時の影響は計り知れないからだ。

もとより、担い手の問題は、冒頭触れたように南会津における大問題であり、ここに住む人全員の問題で解決のためには大勢の人の一丸となった叡智と行動によらなければならないだろう。しかし、一方では時間が無く早急な対応が迫られていることも事実なので、関係者各位がやれるところから対応することも極めて重要と思われる。

私は私自身の立場から、関係機関・団体のご理解ご協力を得ながら、①若い農業者の育成確保、②地域にあった組織化と効率の良い農業の構築、③高齢者、婦人が積極的に対応できる農業の確立、等の実現に努力してゆきたいと考えている。

農業振興部長 道喜 俊弘

ふるさとを顧みて

伝統芸術を通じて

東京都中野区 目黒 美智子さん
(只見町石伏出身)

「ふる里」なんとやさしく温かい慈愛に満ちた言葉でしょうか。ふる里を離れて生活する私たちには、この言葉にどんなにかいやされ勇気づけられたことでしょうか。

忘れもしません。昭和30年4月、まだ残雪の只見を後にいたしまして、早や40年余の歳月が流れました。その間私は、日本古来の伝統芸術というべき茶道、華道に魅せられまして、その真の姿を求めて学び続けて参りました。苦しいこともありました。つらいこともありました。その時、いつも私の脳裡に浮かぶのは、あの美しいふる里の山河、慈愛に満ちた懐かしい人々の顔。打ちひしがれた心にどんなにか勇気を与えてくれたことでしょうか。「絶対に負けない」という強い意志は、やはり奥会津の厳しい風土に培われたものでしょうか。

昨今、本当に信じられないような事件が次々におこります。一体どうなっているのでしょうか。私も若い頃、教育の道にたずさわった者の1人として、なお更に心が痛みます。「子供は育てたように育つ」と言った人もいます。親、教育者は勿論のこと、私たち社会全体の問題としても必死に考えなければならないことだと思えます。いま私にできることは、生涯の仕事である茶道、華道を通じて役に立ちたい。とすればこの道も、本質を忘れて華美に流れ、外見の見栄にのみとらわれやすい。私は真の茶の心、花の心を大事にしたい。技術は勿論大事です。でも真に求められるのは人の心なのです。最終目的は良き人間の形成なのです。命の続く限り学び、教え伝えてゆきたいと願っています。

秋にはまた恒例の郷土のつどいがあります。なつかし人々の顔、方言の飛びかい、再開を喜ぶ人たち……万障繰り合わせて出席します。



問い合わせ

あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349
E-mail m-nourin@akina.ne.jp
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

檜枝岐歌舞伎（檜枝岐村）

8月18日、9月2日開催



古紙配合率50%再生紙を使用しています

この広報紙は
古紙配合率50%再生紙と
SOY（大豆油）インキを
使用しています。

